



和と力

8・9月号



売布小ホームページ

令和7年(2025年) 8月29日

宝塚市立売布小学校

未来を守るために、今できること

校長 藤山 昌生

長い夏休みが終わり、いよいよ今日から2学期がはじまります。みなさんはこの夏をどのように過ごしましたか？ 家族と過ごした時間、読書や自由研究に打ち込んだ時間、あるいは自然の中での体験など、それぞれに思い出があると思います。新しい学期では、この夏にたくわえた力を生かして、さらに自分を鍛え、成長できる2学期にしたいと思います。ぜひ、夏に感じたことや学んだことを、友だちや先生といっぱい話してほしいと思います。



毎日暑い日が続く一方で、日本各地では記録的な集中豪雨が相次ぎ、都市部では道路や地下街の冠水、住宅の浸水など深刻な被害が発生しています。最近では、1時間に100mmを超える豪雨や、九州や西日本で線状降水帯による大雨が報告されました。このような「都市型水害」は、誰にとっても身近な脅威となっています。避難経路の確認やハザードマップの活用、そして、命を守るための「早めの判断」があらためて重要であることを痛感しました。

9月1日は「防災の日」、そして8月30日から9月5日は「防災週間」です。この期間は、関東大震災や伊勢湾台風の教訓を忘れず、防災意識を高めるために設けられています。家具の固定、非常持ち出し品の点検、家族での避難場所の確認など、この機会にできることから確実に進めていきたいですね。災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、「いつか」ではなく「今」備えることが大切です。

さて、夏休み号でもお伝えしましたが、今年は戦後80年、ヒロシマ・ナガサキの被爆から80年という節目の年を迎えました。8月6日、広島で開催された平和記念式典では、広島市の小学生代表が「平和への誓い」として、次のように語りました。

「One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。」 (引用 https://www.city.hiroshima.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/042/449/20250806.pdf)

被爆者の証言を次の世代へ語り継ぐ使命、そして世界の平和を願う心を、子どもたちが力強く表明しました。戦争の悲惨さを知り、平和を守るために行動することは、私たち一人ひとりに課せられた責任です。宝塚市在住で、兵庫県原爆被害者団体協議会前理事長の岡邊好子さんも、「生かされている限り、語り継ぐ責任がある」という思いで、長年にわたりご自身の体験を語り続けてこられたお一人です。9月5日には、岡邊さんを売布小学校にお招きし、修学旅行に行く6年生に向けてお話をさせていただきます。6年生は、岡邊さんのお話、社会科の学習、現地での学びから、平和の尊さを学んでいきたいと考えてます。そして、学校の代表として在校生にも平和の尊さを伝えていく役割を果たしていきたいと思っています。これからの未来、平和な未来を創っていくのは子どもたち自身です。学校全体で、「平和」とは何なのかをしっかりと考えながら、今できることを行動に移していきたいと思っています。

